

児童・生徒の現状・課題

学習のねらいや目的を理解し、自然な形での対話や思考を深め合う姿が見られるようになってきている。一方で、自分の考えを言葉にして伝えたり、文章で表現したりすることに抵抗感をもち、つまずく様子が多々見られる。

学び続ける力を育むための重点目標**【研究主題】**

すすんで伝え合う児童の育成～「書くこと」を通して～

見通しをもって主体的に学習に取り組み、自然で必要感のある価値ある対話を通して、自らの考えをすすんで伝え合い、考えを深めるようにする。

具体的な手だて①

単元の学習計画を児童と共に作り上げ、魅力的な単元のゴール設定をする。計画表を掲示することで、児童が単元の見通しをもち、主体的に学習に取り組み、学び続ける力を育めるようにする。

具体的な手だて②

前時の学習の振り返りを授業の導入で紹介し、学習の連続性を意識できるようにする。また、紹介する内容を精選することで、本時のめあてを児童と共に立てられるようにする。

具体的な手だて③

複数人で文例を作成することで、児童の思考の流れや取組を具体的に想定し、ワークシートの精選や評価、教材研究に生かす。文例の内容・量・提示のタイミングについて検討する。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	83.1	87.0	80.0
②授業のはじめには、これまで学習したことを振り返ったり、取り組む課題やめあてを確認したりしている。	77.8	81.0	80.4

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	100	100	94.4
②児童生徒が自分で計画を立てて学習をすすめる力を育むため、授業や家庭学習等において、手だてを講じたり、指導したりしている。	100	100	94.4

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

「学力向上だより」を通して、各学年や教科で行われている具体的な実践を共有する。また、授業観察の際には指導案を全教員に配布し、日常的に教師同士が学び合う雰囲気と機会を醸成する。

総括(7月)

本校では、年間を通して各学年1回の研究授業を行う。(7月現在、3回実施)これまでの成果は、教師がこの数年の校内研究で得た学びを、普段の授業から実践していることである。授業づくりのポイントについて、校内全体で共通認識を図ることで、経験年数にかかわらず、各々が授業力の高まりを実感している。今後の課題は、児童が対話で形成した・変化した考えを、文章に表す場面で活かすための手だてを検討していくこと。加えて、児童が単元のゴールに向けて、自分で決めた方法で学び、考える授業づくりを検討していく必要がある。

総括(1月)

「すすんで伝え合う児童の育成～『書くこと』を通して～」を研究主題として、上記三つの具体的な手だてを継続して行ってきた。その結果、児童が学習のゴールを意識し、対話を通して考えを深め合う姿が見られるようになった。また、学力向上だよりや授業観察などを通して、日頃からの授業実践を共有し続けた。これにより、教師間での授業づくりの共通理解が生まれ、日常的な授業改革が進んでいる。7月時点での総括で述べたように、今後は、対話によって形成・変化した考えを、文章表現につなげる手だてを一層工夫していく必要がある。